



創立 30 周年記念事業経過報告

30 周年記念事業実行委員長

広 沢 正 久

創立30周年記念事業経過報告をいたします。

「30ケ年を一世とす。父子相継ぐを一世とす」と申します。30ケ年の業績を一括し、そして次の世代に引き継いで行く大切な節目に立ち、重責を感じます。

「クラブ」の歩み 私共クラブはチャーターメンバー34名で発足し、現会員79名中、僅かに4名が残っています。30年の歳月の流れを今更のように感じ、感慨一入です。

クラブは10年毎に外部に拡大し、10周年には会員19名が八幡西ロータリークラブに、20周年には10名の方々が八幡中央ロータリークラブにと移籍されました。八幡西ロータリークラブより八幡南ロータリークラブが誕生し、ロータリークラブは増え、ロータリアンの数も増加しました。

八幡ロータリークラブの地域への奉仕活動は大小さまざまで、何れも貴重なものですが、特に取りあげれば、

- ① 10周年に私共クラブの先達松本兼二郎氏講演寄稿選集「火種は皆持っている」を出版。
- ② 八幡西アディショナルクラブ発足記念として、1,200本の桜苗木を会員各自が手植えをし、「音滝山千本桜」と名付け、20年を経た今日見事に育っています。
- ③ 1970年第370地区年次大会記念に「太陽と時計の塔」を児童文化センター前に寄贈。
- ④ 20周年には八幡中央ロータリークラブと共にその誕生記念として、帆柱山自然公園山頂に玄海灘、遠賀平野一望の「ロータリー展望台」を設置。

その他福祉、環境美化、青少年奉仕、交通安全、災害援助等その寄贈活動は一々数えきれません。会員各自の奉仕活動をも加えれば真に歴大な業績です。

国際関係では地味で余り目立った業績はございません。敢えて取りあげれば、

- ① 1960年代前半に英国のクラブとMatched Clubを結び、お互いの学童の絵画交換、両市のスライド交換等を行ないましたが、進展を見ぬままになりました。
- ② 1960年代の後半、釜山ロータリークラブと書信交換、インターアクトの交換、韓国緑化計画協力等接触がありましたが、ここまでで停滞しました。
- ③ 混迷のまま1970年代を脱し、模索の1980年代に移行しました。姉妹締結の話題が提供され、また当クラブからロータリー財団留学生を西独フランクフルトに送り、昨年度には国際青少年交換学生を濠洲から受け入れる等、最近国際的なクラブの動きが出てまいりました。

地域奉仕ならびに国際交流の30年に亘っての概略でございます。

30周年記念事業については、昭和59年8月14日、私は森(前)会長より委員長を委嘱され早速会長経験者による諮問委員会、続いて企画委員会を結成し、過去を受けて準備に入りました。先ず事業資金は2ケ年に亘り会員各自の負担とし、その範囲内で計画を樹てねばなりません。炉辺会談を開き、多数のご意見を賜わり参考にいたしました。

八幡ロータリー賞については、ロータリークラブが増えてロータリアンも増加し、また30年間の数え切れない寄贈活動等前述の通りです。にもかかわらず、取り立てて街が奇麗になったようでもないし、交通事故も減らない、青少年の不良化、老人問題等何だか気になることが多くございます。私共の活動が独りよがりで片寄り、一方的な押しつけではなかったでしょうか？と、反省します。

他人まかせでありました今迄の寄贈活動から、自力の活動に転じ、物から人へと視野を変へ、クラブが存続する限り、地域の人々の心の中に根を張り続け、毎年創立記念日には価値ある人々に、八幡東区を愛する人々に感謝と激励を贈り、お祝いすることにしました。八幡ロータリークラブの「人間尊重」の証として、その名称を「八幡ロータリー賞」と定め、創立30周年地域奉仕記念事業といたしました。

姉妹クラブ提携であります、物の豊かな80年代に入り、世の中の情勢からも国際人としての責任を果さねばならない時代がまいりました。新しい国際関係を結ぶことが迫られます。政治的にも余り左右されない日韓のロータリークラブこそ理解を深めあい、友好の絆を結ぶ機会を持たねばと思いたちました。向笠R I (前)会長を初め多くの方々の仲介の労をいただき関係者の大変な努力により姉妹クラブ締結が決定、創立30周年国際奉仕記念事業といたしました。

創立30周年記念誌のことですが、クラブの歴史を将来に残すには、記念誌発行は不可欠と逸早く委員会を組織し編集に遺漏のないよう無理でないよう考えました。最近10年のクラブの歩みを主に、本日の式次第も掲載を予定し、発行は昭和61年7月を目標に設定いたしました。

森(前)会長時代に以上の大綱を決定し、本年度入江会長の時代に移行しました。昭和60年10月、企画委員会を発展的に解消し、実行委員会と改め、充実発足、実行に入りました。

昭和60年11月23日、韓国釜山九徳ロータリークラブ創立3周年を記念し、当クラブから13名が参列し、姉妹結縁仮調印式を盛会裡に終了いたしました。

12月から今年1月に亘って、別紙「八幡ロータリー賞表彰規則」ならびに「八幡ロータリー賞運用規定」を制定、その表彰対象は国際青年年に因んで「日本ボーイスカウト福岡県連盟八幡地区」を推薦、決定いたしました。

創立30周年記念式典につきましては、本日の式典を通してクラブは自然に親しみ、人々を愛し、その実体を明らかにしようとしています。誰かに準備をして貰うのではなく、夫々自分の祭を持つようにと考え、全員参加を旨といたしました。あくまで質素で、それでいて意義ある30周年記念式典を念じつつ、今日まで皆で工夫を凝らして参りました。本日ここに目出度く各種の記念行事の実施を見て深謝いたしており、この式典がご協力により、つつがなく盛大に進められるものと信じております。

私共クラブは着実に成長し、よい伝統と優れた業績を残しております。しかしまだ多くの反省点もございます。

30周年を記念し、新しい事業は本日より明日に向かって歩き始めました。

「道は始めにあるのではない、人が歩いた跡に出来る」と申します。雑草に蔽われることなく大道となりますよう衷心から祈念してやみません。

ご臨席の皆様始め、ご関係各位のご教示、ご支援を賜りますよう切にお願いいたします。

終りに委員として働いていただいた皆様にお礼を申しあげ、クラブ30年の歴史の重みに充分意を尽し得なかった経過報告をお赦し下さい。

「新たなアイデア、八幡ロータリー賞」

八幡地区内で社会、青少年、国際、職業の各奉仕部門で市民の模範となる隠れた人達へのささやかな表彰制度は、廣澤正久創立30周年記念事業実行委員長のヒントで花開いた。

廣澤委員長の経過報告では「RCが増えてロータリアンも増加し、また当クラブは30年の間、数え切れない寄贈活動を繰り返してきたにもかかわらず、取り立てて街が綺麗になった様でもないし、交通事故も減らない。また青少年の不良化や老人問題など何だか気になることが多くあります。私どもの活動が独りよがりで偏り、一方的な押しつけでなかったらどうかと反省します。他人まかせでありました今までの寄贈活動から、自分の活動に転じ、物から人へと視野を変え、クラブが存続する限り、地域の人々の心の中に根を張り続け、毎年創立記念日に価値ある人々に、八幡東区を愛する人々に感謝と激励を贈り、お祝いすることにしました。八幡RCの〈人間尊重〉の証として、その名称を〈八幡ロータリー賞〉と決めました」と述べている。

当RC 30周年の1986年は国際青年年にあたることから、第一回の八幡ロータリー賞は下川憲一青少年奉仕委員長を選考委員長として日本ボーイスカウト福岡県連盟八幡地区に決定し、式典当日に定行次彦委員長に表彰状と副賞(10万円)を贈呈した。

八幡ロータリー賞は200万円の基金からスタートし、毎年50万円を積み立てて1000万円を基本基金とし、その利子を財源としたが、途中1991年次に500万円に改め、その後は必要資金を積立て500万円台を維持している。

この10年間は、社会福祉法人や社会福祉奉仕者、青少年育成者、幼児育成事業奉仕者、国際交流草の根活動家、長期医療看護奉仕者や自然環境保護団体などを選考し表彰をつづけている。

この八幡ロータリー賞は創立40周年記念事業にも引き継がれ、1996年からは従来の四大奉仕部門に加え、芸術・文化振興部門を新設し対象範囲を拡充することになった。

八幡ロータリー賞表彰規則(案)

(趣旨)

第1条 略

(該当)

第2条 会長は次の各号の一つに該当する者のうちから、表彰審査委員会に諮って適当と認めるものを表彰する。

- ① 多年社会の福祉の増進に寄与貢献し、社会奉仕活動の模範となり、その功績が特に顕著な者。
- ② 青少年の育成指導に貢献し、広く市民活動を行い、青少年奉仕活動の功績が特に顕著な者。
- ③ 国際親善に努力し、国際理解を深め、国際奉仕活動の功績が特に顕著な者。
- ④ 職業人として社会に貢献し、その職業奉仕活動の行為が、広く市民の模範として認められる者。
- ⑤ 芸術・文化活動において活躍し、その業績が特に顕著な者。
- ⑥ 本賞に対し、多額の金品の寄付をした者。
- ⑦ その他会長が必要と認める者。

(推薦の方法)

第3条 候補者の推薦に当たっては、八幡東区又は八幡西区(以下東西区と言う)に居住するか、若しくは、東西区を活動の本拠とする者の中から推薦することを原則とする。

2 候補者の推薦に当たっては、様式1の八幡ロータリー賞候補者推薦書に記入の上、12月20日までに提出することとする。

(選考の方法)

第4条 表彰の適正を期するため表彰審査委員会を置き、その委員は会長が指名する。候補者を推薦した者は委員に指名してはならない。

(表彰の方法)

略

(表彰の期日)

略

数	年	月	日	受賞者(グループ)名	推薦者
1	1986			① 日本ボーイスカウト福岡県連盟八幡地区委員会	
2	1987			① 社会福祉法人カトリック社会事業協会(聖小崎育児園)	
3	1988			① 桑田真璃世(手話サークル)	
4				② 矢成 操(老人ホームに手作り品プレゼント)	
5	1989			① 尹 昌烈・金連心(韓国との姉妹締結橋渡し)	
6	1990			① 徳永幸男(大蔵スポーツ少年団)	
7				② 正司園勲(青少年柔道指導)	
8	1991			① 本村義雄夫婦(愛車くまごろう号による幼児育成事業)	
9	1992			① 高見フレンド(国際交流事業)	
10				② ひみこの会(留学生や在住外国人との交流)	
11	1993			① 盛岡一代(製鐵病院看護総婦長)	
12				② 矢川静(済生会八幡総合病院看護婦長)	
13	1994			① 帆柱自然愛護会	
14	1995			① 九国付女子部生徒会(地域ボランティア活動)	
15				② 県立八幡高校生徒会(地域ボランティア活動)	
16	1996			① 八幡東警察署(巡回連絡プロジェクトチーム)	
17				② 石松達也(ハニーハワイアンズ)	
18				③ 和田啓子(帆柱少年少女合唱団)	
19	1997			① 八幡東警察署一心会柔道の部・剣道の部	青木 順之助
20				② 槻田地区発展期成会自然環境部会	吉開 和男
21	1998			① 新日鐵マンドリン合奏団	花田 典夫
22	1999	3	23	① 八幡東交通安全協会婦人部会幼児教育班	浅野 絢三
23				② 八幡東こども劇場人形劇同好会	波多野 盾夫
24	2000	4	18	① 黒佐水泳学校(地域社会への奉仕活動)	村山 紘一
25				② 山本昌弘(八幡東警察署山路駐在所)	久門 敏基
26	2001	3	27	① 九州国際大学付属高等学校女子部	市丸 喜一郎
27				② 北九州美術館美術ボランティア	原田 準一
28	2002	3	19	① 中央町を愛するおかみの会	安田 寛一郎
29	2003	3	18	① 八幡東警察署一心会柔剣道教室指導員	久門 敏基
30	2004	3	23	① 聖幻会(知的障害者への舞踊指導)	下澤 武昭
31				② 北九州マンドリン合奏団	日高 征二

[illegible]